

西安市西北大学を訪問

長野は2015年9月14日から4日間、高勝利教授の招きにより、中国西安市西北大学の化学及び材料科学学院を訪問しました。3年前の2012年2月に同学院の謝鋼教授ら4名が、構造熱科学研究センターを訪問し、当センターで開発された高精度マイクロ燃焼熱測定装置を見学しました。また、その時に西北大学では高教授らが回転型マイクロ燃焼熱測定装置の開発を目指しているということであったので、長野から詳細な技術的助言を行いした。

その後3年が経過して、西北大学で回転型マイクロ燃焼熱測定装置の試作1号機がほぼ完成し、開発の最終段階になったので、完全燃焼を実現させるための技術などについて助言するため、今度は長野が西北大学を訪問することになったものです。また今回の長野の西安訪問には、構造熱科学研究センターで博士研究員を務めた藍孝征博士が山東省から駆けつけて同行してくれました。

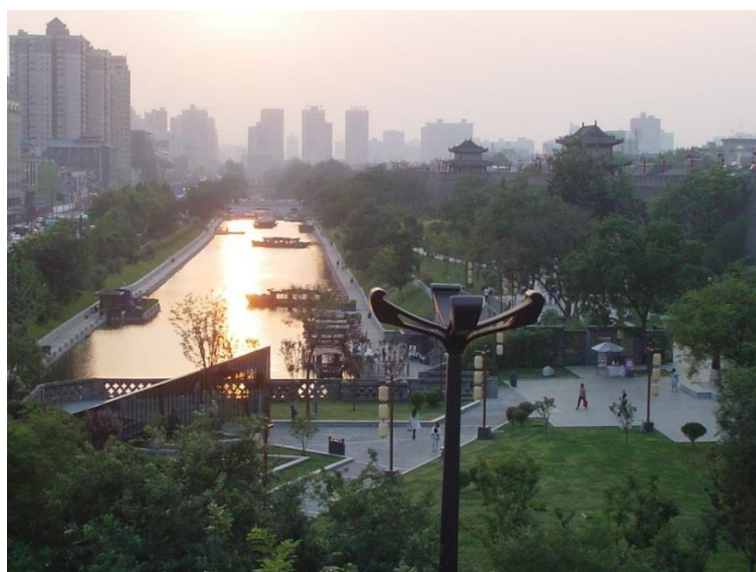
西北大学の同装置の開発は、大学院生が学位論文としてまとめる最終段階にありました。実際に、実験室で新しく出来上がった装置を見せてもらいながら詳細に説明を受け、幾つかの技術的な問題点の指摘とその解決方法について助言しました。

西北大学の同グループは、教員4名と学生・院生約25名からなる大きな研究室です。長野は同グループのセミナーで、これからの材料科学における高精度燃焼熱測定の役割について講義する機会を得ました。大学院生や学生たちが次々と手を挙げて質問してくれたので、たいへん充実したセミナーとなりました。長野は、同グループが化学熱力学の次の世界中心を目指して、発展することを期待すると述べて、講義を締めくくりました。

今回の訪問では、航空券から滞在中の観光まですべて、高教授らによって手配していただきました。また、大学院生たちも、貴重な自分の研究時間を割いて長野の滞在をサポートしてくれました。構造熱科学研究センターは、世界最高水準の高精度マイクロ燃焼熱測定を開発することに成功しましたが、残念なことに後継者がなく、高精度燃焼熱測定は、もはや日本からも完全に消滅する運命にあります。その前に、マイクロ燃焼熱測定を引き継ぐことを表明する研究グループが1つでも現れたことは、とてもありがたいことです。

私たちはこれからも、密接な協力を進めることを約束して、帰阪の途につきました。長野を招いていただいたことに、西北大学の高教授、謝教授、楊奇教授、陳三平教授に心より感謝したいと思います。また、同グループが化学熱力学分野における力量を高めるために、今後可能なかぎり協力していきたいと思います。

(長野八久)



古代と現代が共存する3000年の都、西安。長城から夕暮れの市内を望む。